

# 学校空調配管に採用

## 断熱被覆 アルミニウム合金管

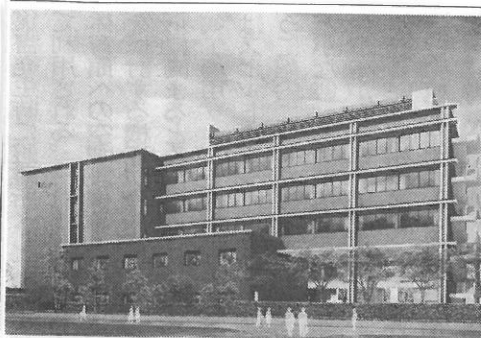


奥田 康信社長

空調関連部材の総合メーカー、桃陽電線（社長）  
奥田康信氏、本社・大阪市天王寺区石ヶ辻町18-22の断熱被覆アルミニウム合金管（商品名キヤット・パイプ）が、学校法人上宮学園天王寺キャンパス（大阪市天王寺区上之宮町28-1）の新

校舎建設に伴う空調設備整備工事の冷媒配管に採用された。

新校舎建設は同学園の創立130周年記念事業の一環として行われ、高校・中学共用（60教室）校舎を新築する。3月末竣工。鉄骨5階（一部6階）建、延床面積1万4311平方メートル。使用されたアルミニウム管は枝管部分のみだが、3分（10ミリ径）×5分（20ミリ径）の断熱被覆タイプを中心とした。ペアコイルを約4千枚納品した。安田清志副社長は「当



上宮学園新校舎

ペアスパイプは、2010年経産省「ものづくりに中小企業支援事業」に採択され、18年には「NET IS」(国土交通省)の新技术情報システム

社は10年前から業界に先駆け、銅管に代わる冷媒配管としてアルミニウム合金製連絡配管の市場開拓を進める一方、冷凍・空調・暖房EXPO「HVAC&R JAPANA」にも2014年、16年、18年と連続出展し、アルミニウム管の特性をアピールしてきた。キヤット・パイプの施工総延長は昨年までで75万メートルに及ぶ。これまでの供給経験から、より確実で事故のない施工を目指して、トルクレンチやフレアツールなど専用工具を開発。大阪本社、東京営業所（埼玉東川口市）と天理工場（奈良県天理市）を中心に施工講習会にも積極的に取り組んできた。要望があれば出張講習も受け付けている」と実績を語る。

「キヤット・パイプは、2010年経産省「ものづくりに中小企業支援事業」に採択され、18年には「NET IS」(国土交通省)の新技术情報システム

△に登録（CB1800212）された。

奥田社長は「今回の学校工事は当初の条件ですべて銅管での配管だったが、枝管部分をアルミニウム合金製に変更していただけた。アルミニウムは銅に比べ軽量で扱いやすく、加工もしやすい、結露しにくいなどのメリットがあるが、教育現場では安全性が最優先。その根拠としてNETIS登録が後押しとなった。この変更ですべて銅管を使用する場合約2割減らせた。今後学校空調の需要が高まる中、再利用しやすいアルミニウムの環境負荷軽減効果に加え、予算の厳しい地方自治体にとって資材費のコスト減は大きい」と話す。

さらに「学校案件への採用と共に、20年の東京オリンピックや25年の関西万博の需要増に備えて、東日本商品センターに併設した埼玉工場（さいたま市岩槻区）で新鋭の高速被覆コイル製造装置を6月から稼働させる。これで天理工場と合わせて東西2拠点での製造体制が整い、さらなる業務拡大に弾みをつけたい」と今後の発展へ向け意欲を語った。